

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																					
東京観光専門学校		昭和57年10月1日		昭和57年10月1日		〒162-0843 東京都新宿区市谷田町3-21 (電話) 03-3235-5713																					
設置者名		設立認可年月日		設立認可年月日		代表者名																					
学校法人Adachi学園		昭和42年1月12日		昭和42年1月12日		安達 暁子 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-11 (電話) 03-3292-0662																					
分野		認定課程名		認定学科名		専門士																					
商業実務		観光専門課程		ブライダル学科 ブライダルフラワー専攻		平成12年文部科学省 認定																					
高度専門士		-																									
学科の目的		ニーズが多様化しているブライダル業界が求める「ウェディングプランナー」の育成を目的とする ①企業と連携した実習授業を行いブライダル業界における高い専門的な技術と知識の修得を図る。 ②一般教養としてビジネスマナーやコミュニケーション能力の向上を目指す。																									
認定年月日		平成28年2月29日																									
修業年限		昼夜		講義		演習																					
2年		1792		1152		0																					
昼間		1408		0		0																					
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数																					
20人		5人		0人		2人の内数																					
兼任教員数		総教員数		14人の内数		16人の内数																					
学期制度		■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率、試験、授業態度による総合評価																					
長期休み		■学年始:4月1日 ■夏季:7月25日～8月31日 ■冬季:12月24日～1月7日 ■春季:3月1日～3月31日 ■学年末:3月31日		卒業・進級 条件		卒業単位の取得が条件 出席率70%以上、定期テストの実施																					
学修支援等		■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談や三者面談、専門カウンセラーによる面談実施		課外活動		■課外活動の種類 国内旅程管理研修、海外旅程管理研修 ■サークル活動: 有																					
就職等の 状況※2		■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 旅行・バス業界 ■就職指導内容 ①担任との面談実施、就職担任との面談実施、面接練習 ②学内企業セミナー実施 ■卒業生数 4 人 ■就職希望者数 3 人 ■就職者数 3 人 ■就職率 100.0 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 75.0 % ■その他 ・進学者数: 0人 (令和 3 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブライダルコーディネート技能検定</td> <td>②</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ブライダルコーディネート技能検定	②	3	1												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
ブライダルコーディネート技能検定	②	3	1																								
中途退学の 現状		■中途退学者 0 名 令和3年4月1日時点において、在学者6名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者6名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任との個人面談、保護者との面談、初年度教育の徹底、補習の実施など		■中退率 0 %																							
経済的支援 制度		■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度(授業料減免制度) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																									
第三者による 学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科の ホームページ URL		https://www.tit.ac.jp/department/bridal/																									

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

昨今の結婚式におけるニーズは多様化しており、業界では、結婚を決意したカップルが結婚式を迎えるまで、どのタイミングでどのような業務を行うのか、その業務に必要な知識は何かを幅広く身に付けている人材が求められている。ブライダル学科では、これに対応するため、結婚式に関わる多くの職種を幅広く実践的に学べるような教育課程を編成している。特にブライダルフラワー専攻では婚礼時の花嫁の支度に関する知識と技術はブライダル業界でも根幹をなす知識とスキルであり、新郎新婦にコーディネートするブーケや花束のイメージの起点となるものであり、企業と連携し婚礼衣装の着付け等を実践的に学ぶ。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学校長の下部、教員組織である学務部の上位に位置し、当校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業と連携し、必要な情報の把握・分析を行い、授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む教育課程の編成に活かすことを目的として設置された組織である。

具体的には、年度内に2回の開催を原則とし、シラバスを基に、各科目の授業目的や授業内容が業界のニーズに応えたものになっているかを、教員へのヒアリングを交えながら確認し、より実践に即したカリキュラムとなるよう、改善策を提案し、採用の是非を検討するものである。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
西田 篤史	株式会社Feeling Design	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
野口 幸一	一般社団法人ホスピタリティ機構	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
鷺坂 伸子	株式会社エッセ	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
磯部 浩昭	東京観光専門学校	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
疋田 彩湖	東京観光専門学校	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、**企業等委員の場合には**、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年8月27日 14:00～16:00

第2回 令和4年3月30日 13:00～15:30

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

編成委員より改めて、人間力、コミュニケーション力を高める授業の必要性を指摘された。

それを受け令和4年度のカリキュラムより以下の改善を実施する。

- ①「コミュニケーションスキル」授業を企業と連携した実習授業に改善し、より専門的な能力の向上を図る。
- ②それぞれの授業のつながりを持たせられるよう情報共有の徹底。
- ③内定後は自分の課題を見つけ、改善して卒業できるような指導。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ブライダル学科では、多様化するニーズに対応できる幅広い業務知識をもった人材を輩出することを目指している。この目標を実現するためには実務に関する実践的な授業を行うことが必要である。そこで学科では、企業・業界団体等と連携し、業界のトレンド等に関する情報の提供及び校内の実習施設や設備等を活用した指導などの協力が得られる企業・業界団体を選定している。また、校内の実習の実施にあたり、企業等からの課題を提示し、同企業の講師による定期的な指導から学修成果の評価を行うなどの体制をとることが可能な企業・団体を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

株式会社エッセとの連携により、「ブライダル知識」において、業界が求めるスキルの習得やスタイリング力など表現能力の向上を図っている。
 さらに同企業より学期末において学習成果の評価を行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ブライダル知識(ブライダルファッション実習)	新婦のウエディングドレス及び新郎のタキシードの着付方法を実習を通じて学ぶことにより、ブライダル業界が求めるスキルの向上を目指す。	株式会社エッセ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

①専門分野における実務に関する研修
 就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学科を指導する立場の教員として、常に業界の動向に目を向け、専門知識やスキルを体得するを目的に、業界団体等の機関により実施される研修に参加することとする。この研修は年に一度、原則として6月に実施している。

②指導力の修得・向上のための研修
 就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学生を指導する立場の教員として、学生に対する指導力の修得・向上のための研修に参加する。

上記①及び②の研修は、勤務年数、業界経験年数にかかわらず、特段の理由がない限り参加しなければならない。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ブライダル業界の最新動向につて」(連携企業等:株式会社Feeling Design)

期間:令和3年8月27日(金) 対象:ブライダル学科教職員全員

内容:ブライダル業界の最新の施設や取り組みを理解し、現状を踏まえた学生指導に役立てる。さらにチームワークを必要とする業務の増加に伴い、コミュニケーション力や提案力をつける指導の強化を図る。

②指導力の修得・向上のための研修等

「～すべての人のジェンダーが平等に尊重される学校へ～」(連携企業等:日本LGBT協会)

期間:令和4年3月2日(水) 対象:全職員

内容:

【目的】①LGBTQとは何か、当事者の多様性を理解すべき領域はどこまでかを学ぶことで、漏れのない学生対応が可能になる。

②LGBTQの当事者である学生の、こころの状態を把握することで最善の関わり方がわかる。

③教育現場に特有の注意点や必要な環境整備を理解することで、当事者の心理的安全性を担保できるようになる。

【内容】①LGBTQとは何かという基礎的な理解をする。

②LGBTQ当事者の生き方やこころの持ち様を深く理解する。

③学生に向き合う教育現場でのLGBTQの基礎・気を付ける点を学ぶ。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「変化する結婚式への対応について」(連携企業等:株式会社Feeling Design)

期間:令和4年8月24日(水) 対象:ブライダル学科教職員全員

内容:結婚式のプランニングの変化にともなう打ち合わせのスタイルの変更を学びゲストヒアリング向上のためのコミュニケーション力養成を学ぶ。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「ITリテラシー・情報セキュリティ研修」

「ITリテラシー・情報セキュリティの重要性を指導できる教員育成」(連携企業等:合同会社アクセルフォーム)

期間:令和4年6月16日(木) 対象:全職員

内容:

【目的】ITリテラシーを向上させ、ICT教育の基盤づくりを進める。情報セキュリティの重要性を指導できる教員育成

【内容】①ITリテラシーとは何かという基礎的な理解をする。

②セキュリティ関連法規を理解する。

③教育現場(インターンシップを含む)におけるインターネットの利便性と危険性の理解

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教育目標に従った人材育成ができているか、あるいはその教育目標を学科の指針として具体的に展開できているか、関連業界、卒業生を対象として、自己評価の結果にそって説明をすることで、教育目的、教育方法・内容、ガバナンスの3つの柱を基本とした運営面を評価いただく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか、など
(2) 学校運営	目的に沿った運営方針が策定されているか、など
(3) 教育活動	教育課程に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか、など
(4) 学修成果	就職率の向上が図られているか、など
(5) 学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(6) 教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(7) 学生の受入れ募集	募集活動は適正に行われているか、など
(8) 財務	中長期的に財政基盤は安定しているか、など
(9) 法令等の遵守	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10) 社会貢献・地域貢献	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など
(11) 国際交流	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

教育活動において、LGBTQをはじめとした多様性の理解が求められた。職員研修によって、教育現場でのLGBTQの基礎・気を付ける点を学ぶなど、多様性の理解度向上に取り組んだ。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
高木 友子	公益財団法人日本ケアフィット共育機構	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	協会役員
野口 幸一	一般社団法人ホスピタリティ機構	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	協会役員
木村 克也	特定非営利活動法人日本マナー・プロトコール協会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	協会役員
原 康隆	スカイマーク株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業役員
小林 隆	東武旅行サービス株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業役員
西田 篤史	株式会社Feeling Design	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業役員
関口 恭一	株式会社CALMO	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業役員
米倉 洲	東武トップツアーズ株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(3年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL:https://www.tit.ac.jp/about/files/information_disclosure.pdf

公表時期: 令和4年6月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業が求める、時代に即した人材を育成するための課題やニーズを共有し、学校の実践的な職業教育にかかる活動を評価・改善する中で、質の高い職業教育を行っていくために、広く雇用側の企業、関係団体、自治体等に向けて公表していくものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学科の特性や具体的な目標及び計画が設定されているか、など
(2)各学科等の教育	上記の目標にそったカリキュラムになっているか、など
(3)教職員	教職員として学生対応の資質向上にあたっているか、など
(4)キャリア教育・実践的職業教育	企業と連携した授業を体系的に取り入れているか、など
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(6)学生の生活支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(7)学生納付金・修学支援	適正に行われているか、など
(8)学校の財務	財政基盤は安定しているか、など
(9)学校評価	設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など
(11)その他	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.tit.ac.jp/about/files/information_disclosure.pdf

授業科目等の概要

(観光専門課程ブライダル学科ブライダルフラワー専攻)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			就職対策	就職活動に必要な自己分析、自己PR、志望動機、履歴書の書き方などの力を身に付ける	1後2前	64	4	○			○	○			
	○			ビジネスマナー	「秘書検定2級」取得を目指しながら、会社の仕組み、人間関係の構築の仕方、敬語、ビジネス文書の書き方などのマナーを身に付ける。	1前2後	64	4	○			○	○			
	○			業界研究	ブライダル業界における職種や企業研究	1後2通	96	6	○			○	○			
	○			ウエディングセレモニー	結婚式の各スタイルにおけるしきたりを学び、模擬挙式の発表を行う	1通	96	6			○	○	○	○		
	○			ヘアメイク実習(ガーデニング・園芸実習)	草木や花の育て方を学ぶ	1前	64	4			○	○			○	
	○			フラワー実習	フラワーを使ってドレスに合わせたブーケやヘアアクセサリーの作成技術を学ぶ	1前	64	4			○	○			○	
	○			衣装知識(フラワー知識)	花に関する知識を学ぶ	1通	64	4	○			○			○	
	○			フォーマルウェア検定(各種概論)	観光業界全般について学ぶことで、視野を広げ、各自が目指す業界との関係を学ぶ	1後	32	2	○			○	○			
	○			レストランサービス技能士(ブライダル情熱論)	ブライダル業界における各職種のトレンドを学ぶ	1通2前	96	6	○			○	○			
	○			パーティーサービス実習(披露宴制作I)	披露宴を行うために必要な役割、準備の仕方、流れを実習を通じて学ぶ	1通2通	128	8			○	○	○	○		
	○			舞台演出(披露宴制作II)	模擬披露宴の準備から発表までを各自が主体的に行う	1後2前	64	4			○	○	○	○		
	○			空間コーディネーター	披露宴会場などの空間のコーディネートに関する技術を身に付ける	1後2通	96	6			○	○			○	

13	○		テーブルコーディネート	花やバルーンを使ったテーブルコーディネートの方法を学ぶ	1 後	32	2			○	○						○	
14	○		ブライダル知識 (ブライダルファッション実習)	ウエディングドレスの着付け、小物の合わせ方を学ぶ	1 後	32	2			○	○						○	○
15	○		カラーコーディネート	色彩検定対策	1 通 2 前	96	6	○			○						○	
16	○		接客英語 (筆記対策 (一般常識))	就職試験に向けた基礎学力をつける	1 前	32	2	○			○						○	
17	○		ユニバーサル ホスピタリ ティ (ブライダル ゼミ)	産学協同に向けた実践	1 通	64	4	○			○						○	
18	○		PC実習	Word, Excel, Powerpointなどの基本的操作を身に付ける	1 通	64	4			○	○						○	
19	○		インターン シップ	実践力を身に付けるため、企業で研修を行う	1 後	64	4			○		○						
20	○		和装着付け	和装の知識と着付けの技術を身に付ける	2 前	32	2			○	○						○	
21	○		ビバレッジ実 習 (立ち振る舞 い)	接客業に必要な立ち居振る舞いを身に付ける	2 通	64	4			○	○						○	
22	○		MC実習 (接客実習 (プレゼン テーション))	接客の際に必要なお客様への提案の仕方を学ぶ	2 前	32	2			○	○						○	
23	○		ウェディング プランナー実 務 (ウェディン グプランナー 実務)	ウェディングプランナーの実務を学ぶことで、結婚式の準備の流れを学ぶ	2 通	64	4	○			○						○	
24	○		空間デザイン (PC)	店舗内の装飾を学ぶ	2 前	32	2	○			○						○	
25	○		ディスプレイ デコレーショ ン (POP・ちらし 作成)	フラワーショップでの仕事の際に必要なPOPやチラシの作成方法を学ぶ	2 後	32	2			○	○						○	
26	○		ウェディング プロデュース (キャリアプ ランニング)	一般常識を学びつつ、社会に出てからのキャリアの積み方を考える	2 前	32	2	○			○						○	
27	○		ウェディング アイテムデザ イン (ラッピング 実習)	花束やフラワーアレンジメントのラッピングの技術を身に付ける	2 後	64	4			○	○						○	

28	○		A B C 検定対策	アシスタントブライダルコーディネーター検定対策	2後	32	2	○		○		○	
29	○		卒業制作	2年間習得してきたことをもとにブライダル業界へ新たな提案を行う産学協同イベント	2後	64	4			○	○	○	○
30	○		スキルアップ	就職活動に必要な面接、グループディスカッションなどの力を集中的に見に付ける	2前	32	2	○		○		○	
31		○	フードコーディネーター	TOEICスコア向上のための海外留学	1通 2通	128	8	○			○		○
32		○	英検対策 & TOEIC	実用英語検定の取得やTOEICスコア向上を目指す	1通 2前	192	12	○		○		○	○
33		○	手話	接客に必要な手話を学ぶ	1後 2通	96	6			○	○		○
34		○	ヘアメイク実習	ブライダルヘアメイクの技術を学ぶ	2通	64	4			○	○		○
35		○	エステ実習	肌の構造を知り、エステティックの基礎を学ぶ	2通	64	4			○	○		○
36		○	ネイル実習	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェルネイル技能検定の取得を目指しつつネイリストとしての技術を身に付ける	2通	64	4			○	○		○
37		○	フラワーキャリアップ	フラワーを使ってドレスに合わせたブーケやヘアアクセサリーの作成技術を学ぶ	2通	64	4			○	○		○
38		○	カラーコーディネーター	色彩検定対策	2後	32	2	○			○		○
39		○	海外研修旅行	海外のチャペルやホテルを見学する	1後 2後	64	4			○		○	○
合計					39科目	2560単位時間(160単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。	1学年の学期区分	2期
その内必修・選択必修科目は96単位以上取得しなければならない	1学期の授業期間	16週
履修方法・・・必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる		

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																			
東京観光専門学校		昭和57年10月1日	昭和57年10月1日		篠田 真千	〒162-0843 東京都新宿区市谷田町3-21 (電話) 03-3235-5713																		
設置者名		設立認可年月日	設立認可年月日		代表者名	所在地																		
学校法人Adachi学園		昭和42年1月12日	昭和42年1月12日		安達 暁子	〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-11 (電話) 03-3292-0662																		
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																		
商業実務	観光専門課程	ブライダル学科 ウェディングプランナー専攻			平成12年文部科学省 認定	-																		
学科の目的	ニーズが多様化しているブライダル業界が求める「ウェディングプランナー」の育成を目的とする ①企業と連携した実習授業を行いブライダル業界における高い専門的な技術と知識の修得を図る。 ②一般教養としてビジネスマナーやコミュニケーション能力の向上を目指す。																							
認定年月日	平成28年2月29日																							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験																		
2年	昼間	1920	1632	0	1440	0																		
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
50人		22人	0人	2人の内数	14人の内数	16人の内数																		
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率、試験、授業態度による総合評価																			
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月25日～8月31日 ■冬季:12月24日～1月7日 ■春季:3月1日～3月31日 ■学年末:3月31日			卒業・進級 条件	卒業単位の取得が条件 出席率70%以上、定期テストの実施																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談や三者面談、専門カウンセラーによる面談実施			課外活動	■課外活動の種類 国内旅程管理研修、海外旅程管理研修																			
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 旅行・バス業界			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブライダルコーディネーター技能検定</td> <td>②</td> <td>15</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>レストランサービス技能検定</td> <td>②</td> <td>11</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ブライダルコーディネーター技能検定	②	15	11	レストランサービス技能検定	②	11	7								
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																					
ブライダルコーディネーター技能検定	②	15	11																					
レストランサービス技能検定	②	11	7																					
中途退学 の現状	■中途退学者 0名 ■中退率 0% 令和3年4月1日時点において、在学者26名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者26名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学のための理由			■中退防止・中退者支援のための取組 担任との個人面談、保護者との面談、初年度教育の徹底、補習の実施など																				
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度(授業料減免制度) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																							
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																							
当該学科の ホームページ URL	https://www.tit.ac.jp/department/bridal/																							

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

昨今の結婚式におけるニーズは多様化しており、業界では、結婚を決意したカップルが結婚式を迎えるまで、どのタイミングでどのような業務を行うのか、その業務に必要な知識は何かを幅広く身に付けている人材が求められている。ブライダル学科では、これに対応するため、結婚式に関わる多くの職種を幅広く実践的に学べるような教育課程を編成している。婚礼時の花嫁の支度に関する知識と技術はブライダル業界でも根幹をなす知識とスキルであり、新郎新婦にコーディネートするブーケや花束のイメージの起点となるものであり、企業と連携し婚礼衣装の着付け等を実践的に学ぶ。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学校長の下部、教員組織である学務部の上位に位置し、当校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業と連携し、必要な情報の把握・分析を行い、授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む教育課程の編成に活かすことを目的として設置された組織である。

具体的には、年度内に2回の開催を原則とし、シラバスを基に、各科目の授業目的や授業内容が業界のニーズに応えたものになっているかを、教員へのヒアリングを交えながら確認し、より実践に即したカリキュラムとなるよう、改善策を提案し、採用の是非を検討するものである。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
西田 篤史	株式会社Feeling Design	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
野口 幸一	一般社団法人ホスピタリティ機構	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
鷺坂 伸子	株式会社エッセ	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
磯部 浩昭	東京観光専門学校	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
疋田 彩湖	東京観光専門学校	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、**企業等委員の場合には**、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年8月27日 14:00～16:00

第2回 令和4年3月30日 13:00～15:30

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

編成委員より改めて、人間力、コミュニケーション力を高める授業の必要性を指摘された。

それを受け令和4年度のカリキュラムより以下の改善を実施する。

- ①「コミュニケーションスキル」授業を企業と連携した実習授業に改善し、より専門的な能力の向上を図る。
- ②それぞれの授業のつながりを持たせられるよう情報共有の徹底。
- ③内定後は自分の課題を見つけ、改善して卒業できるような指導。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ブライダル学科では、多様化するニーズに対応できる幅広い業務知識をもった人材を輩出することを目指している。この目標を実現するためには実務に関する実践的な授業を行うことが必要である。そこで学科では、企業・業界団体等と連携し、業界のトレンド等に関する情報の提供及び校内の実習施設や設備等を活用した指導などの協力が得られる企業・業界団体を選定している。また、校内の実習の実施にあたり、企業等からの課題を提示し、同企業の講師による定期的な指導から学修成果の評価を行うなどの体制をとることが可能な企業・団体を選定している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

株式会社エッセとの連携により、「ブライダル知識」において、業界が求めるスキルの習得やスタイリング力など表現能力の向上を図っている。
 さらに同企業より学期末において学習成果の評価を行っている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ブライダル知識(ブライダルファッション実習)	新婦のウエディングドレス及び新郎のタキシードの着付方法を実習を通じて学ぶことにより、ブライダル業界が求めるスキルの向上を目指す。	株式会社エッセ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

- ① 専門分野における実務に関する研修
 就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学科を指導する立場の教員として、常に業界の動向に目を向け、専門知識やスキルを体得するを目的に、業界団体等の機関により実施される研修に参加することとする。この研修は年に一度、原則として6月に実施している。
- ② 指導力の修得・向上のための研修
 就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学生を指導する立場の教員として、学生に対する指導力の修得・向上のための研修に参加する。
 上記①及び②の研修は、勤務年数、業界経験年数にかかわらず、特段の理由がない限り参加しなければならない。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等
 研修名「ブライダル業界の最新動向につて」(連携企業等:株式会社Feeling Design)

期間:令和3年8月27日(金) 対象:ブライダル学科教職員全員

内容:ブライダル業界の最新の施設や取り組みを理解し、現状を踏まえた学生指導に役立てる。さらにチームワークを必要とする業務の増加に伴い、コミュニケーション力や提案力をつける指導の強化を図る。

② 指導力の修得・向上のための研修等
研修名:「すべての人のジェンダーが平等に尊重される学校へ〜」
 「〜すべての人のジェンダーが平等に尊重される学校へ〜」(連携企業等:日本LGBT協会)

期間:令和4年3月2日(水) 対象:全職員

内容:
 【目的】①LGBTQとは何か、当事者の多様性を理解すべき領域はどこまでかを学ぶことで、漏れのない学生対応が可能になる。
 ②LGBTQの当事者である学生の、こころの状態を把握することで最善の関わり方がわかる。
 ③教育現場に特有の注意点や必要な環境整備を理解することで、当事者の心理的安全性を担保できるようになる。
 【内容】①LGBTQとは何かという基礎的な理解をする。
 ②LGBTQ当事者の生き方やこころの持ち様を深く理解する。
 ③学生に向き合う教育現場でのLGBTQの基礎・気を付ける点を学ぶ。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「変化する結婚式への対応について」(連携企業等:株式会社Feeling Design)

期間:令和4年8月24日(水) 対象:ブライダル学科教職員全員

内容:結婚式のプランニングの変化にともなう打ち合わせのスタイルの変更を学びゲストヒアリング向上のためのコミュニケーション力養成を学ぶ。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「ITリテラシー・情報セキュリティ研修」

「ITリテラシー・情報セキュリティの重要性を指導できる教員育成」(連携企業等:合同会社アクセルフォーム)

期間:令和4年6月16日(木) 対象:全職員

内容:

【目的】ITリテラシーを向上させ、ICT教育の基盤づくりを進める。情報セキュリティの重要性を指導できる教員育成

【内容】①ITリテラシーとは何かという基礎的な理解をする。

②セキュリティ関連法規を理解する。

③教育現場(インターンシップを含む)におけるインターネットの利便性と危険性の理解

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教育目標に従った人材育成ができていないか、あるいはその教育目標を学科の指針として具体的に展開できているか、関連業界、卒業生を対象として、自己評価の結果にそって説明をすることで、教育目的、教育方法・内容、ガバナンスの3つの柱を基本とした運営面を評価いただく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか、など
(2) 学校運営	目的に沿った運営方針が策定されているか、など
(3) 教育活動	教育課程に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか、など
(4) 学修成果	就職率の向上が図られているか、など
(5) 学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(6) 教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(7) 学生の受入れ募集	募集活動は適正に行われているか、など
(8) 財務	中長期的に財政基盤は安定しているか、など
(9) 法令等の遵守	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10) 社会貢献・地域貢献	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など
(11) 国際交流	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

教育活動において、LGBTQをはじめとした多様性の理解が求められた。職員研修によって、教育現場でのLGBTQの基礎・気を付ける点を学ぶなど、多様性の理解度向上に取り組んだ。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
高木 友子	公益財団法人日本ケアフィット共育機構	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	協会役員
野口 幸一	一般社団法人ホスピタリティ機構	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	協会役員
木村 克也	特定非営利活動法人日本マナー・プロトコル協会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	協会役員
原 康隆	スカイマーク株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業役員
小林 隆	東武旅行サービス株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業役員
西田 篤史	株式会社Feeling Design	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業役員
関口 恭一	株式会社CALMO	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業役員
米倉 洲	東武トップツアーズ株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(3年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL:https://www.tit.ac.jp/about/files/information_disclosure.pdf

公表時期: 令和4年6月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業が求める、時代に即した人材を育成するための課題やニーズを共有し、学校の実践的な職業教育にかかる活動を評価・改善する中で、質の高い職業教育を行っていくために、広く雇用側の企業、関係団体、自治体等に向けて公表していくものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学科の特性や具体的な目標及び計画が設定されているか、など
(2)各学科等の教育	上記の目標にそったカリキュラムになっているか、など
(3)教職員	教職員として学生対応の資質向上にあたっているか、など
(4)キャリア教育・実践的職業教育	企業と連携した授業を体系的に取り入れているか、など
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(6)学生の生活支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(7)学生納付金・修学支援	適正に行われているか、など
(8)学校の財務	財政基盤は安定しているか、など
(9)学校評価	設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など
(11)その他	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.tit.ac.jp/about/files/information_disclosure.pdf

授業科目等の概要

(観光専門課程ブライダル学科ウエディングプランナー専攻)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		ブライダルビジネス実務Ⅰ (業界研究)	ブライダル業界における職種や企業研究	1通	128	8	○			○		○		
2	○		ブライダルビジネス実務Ⅱ (ウエディングセレモニー挙式)	結婚式の各スタイルにおけるしきたりを学び、模擬挙式の発表を行う	1通	64	4			○	○		○	○	
3	○		ブライダルビジネス実務Ⅲ (検定対策)	ウエディングプランナー検定、ドレスコーディネーター検定取得のための検定対策。いずれかを選択する	1通	64	4	○			○		○		
4	○		就職対策・ビジネスマナー	就職活動に必要な自己分析、自己PR、志望動機、履歴書の書き方、また「秘書検定2級」取得を目指しながら、会社の仕組み、人間関係の構築の仕方、敬語、ビジネス文書の書き方などのマナーを身に付ける。	1通2通	128	8	○			○		○		
5	○		接客英語 (筆記試験対策・一般常識)	就職試験に向けた基礎学力をつける	1通	64	4	○			○			○	
6	○		料飲サービス実務Ⅰ (披露宴制作ⅠⅡ)	披露宴を行うために必要な役割、準備の仕方、流れを実習を通じて学び模擬披露宴の準備から発表までを各自が主体的に行う	1通2通	160	10			○	○		○	○	
7	○		料飲サービス実務Ⅱ (FBサービス実習Ⅰ・立ち居振る舞い)	宴会場やレストランにおけるテーブルセッティングおよび料理などのサービスの仕方や、接客業に必要な立ち居振る舞いを身に付ける	1通2通	160	10			○	○		○	○	
8	○		料飲サービス実務Ⅲ (ブライダルマーケティング&セールス・海外ウエディング実務)	売のための仕組みを理論で学び海外挙式やハネムーンの手配に必要な実務を学ぶ	1通	128	8	○			○		○	○	
9	○		ブライダルビジネス実習Ⅰ (披露宴知識)	披露宴に必要な事柄の由来などを学ぶことで、披露宴に対する知識を深める	1通	64	4	○			○		○		
10	○		ブライダルビジネス実習Ⅱ (インターンシップ)	実践力を身に付けるため、企業で研修を行う	1通	64	4			○	○				
11	○		ブライダル知識 (ブライダルファッション実習)	ウエディングドレスの着付け、小物の合わせ方を学ぶ	1後	32	2			○	○			○ ○	
12	○		リアルビジネスⅠ (ブライダルゼミ)	産学協同に向けた実践	1前	32	2	○			○			○	

13	○		リアルビジネスⅡ (TOKANプロジェクト)	2年間習得してきたことをもとにブライダル業界へ新たな提案を行う産学協同イベント	1 後 2 後	64	4			○	○		○	○
14	○		リアルビジネスⅢ (TOKANプロジェクト)	2年間習得してきたことをもとにブライダル業界へ新たな提案を行う産学協同イベント	2 前	32	2	○			○		○	○
15	○		演出論 (選曲・演出知識)	結婚式や披露宴の各場面に合わせた音楽の選び方、演出方法などを学ぶ	1 通	64	4	○			○			○
16	○		パソコン実習	Word, Excel, Powerpointなどの基本的操作を身に付ける	1 通 2 通	128	8			○	○			○
17	○		ホスピタリティ産業概論Ⅱ (各種概論)	観光業界全般について学ぶことで、視野を広げ、各自が目指す業界との関係を学ぶ	1 前	32	2	○			○		○	
18	○		ウェディングプロデュース論 (ウェディングプランナー知識&実習)	ウェディングプランナーの実務を学ぶ	2 通	128	8	○			○			○
19	○		コーディネーター実務 (空間コーディネート&フラワー実習)	バルーンやフラワーを使用し、披露宴会場の装飾について学ぶ	2 通	64	4			○	○			○
20	○		演出概論 (ブライダル情勢論)	ブライダル業界における各職種のトレンドを学ぶ	2 通	##	8	○			○		○	
21	○		パーティー実務 (MC実習)	披露宴の司会進行を実践的に学ぶ	2 通	##	8			○	○			○
22	○		パーティーセールス (教養科目)	各自の就職先に合わせ、社会に出る前にさらに力を付けておきたい科目を3科目選択する。(FBサービス実習Ⅱ・アテンダー実習・ネイル実習・和装着付け・フラワーアレンジメント・ヘアメイク)	2 通	64	4			○	○			○
23		○	検定対策	レストランサービス技能検定3級・フォーマルウエア検定・色彩検定等の取得を目指す	1 通 2 通	256	16	○			○			○
24		○	検定補習	レストランサービス技能検定3級・フォーマルウエア検定・色彩検定等の取得を目指す	1 通 2 通	256	16	○			○			○
25		○	語学	実用英語検定の取得やTOEICスコアの向上を目指す	1 通 2 通	256	16			○	○		○	○
26		○	メイク	ブライダルヘアメイクの技術を学ぶ	1 通 2 通	128	8			○	○		○	
27		○	フラワー	ブーケ及び会場装飾の為の花の技術を身に付ける	1 通 2 通	128	8	○			○			○

28		○	インターンシップ	実践力を身に付けるため、企業で研修を行う	1通	128					○	○		
合計					28科目	3072単位時間(184単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。 その内必修・選択必修科目は96単位以上取得しなければならない		1学年の学期区分	2期
履修方法・・・必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																						
東京観光専門学校		昭和57年10月1日	昭和57年10月1日		篠田 真千	〒162-0843 東京都新宿区市谷田町3-21 (電話) 03-3235-5713																					
設置者名		設立認可年月日	設立認可年月日		代表者名	所在地																					
学校法人Adachi学園		昭和42年1月12日	昭和42年1月12日		安達 暁子	〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-11 (電話) 03-3292-0662																					
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																					
商業実務	観光専門課程	ブライダル学科 ブライダルビューティ専攻			平成12年文部科学省 認定	-																					
学科の目的	ニーズが多様化しているブライダル業界が求める「ウェディングプランナー」の育成を目的とする ①企業と連携した実習授業を行いブライダル業界における高い専門的な技術と知識の修得を図る。 ②一般教養としてビジネスマナーやコミュニケーション能力の向上を目指す。																										
認定年月日	平成28年2月29日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	1792	1184	0	1760	0	0																				
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
20人		1人	0人	2人の内数	14人の内数	16人の内数																					
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率、試験、授業態度による総合評価																						
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月25日～8月31日 ■冬季:12月24日～1月7日 ■春季:3月1日～3月31日 ■学年末:3月31日			卒業・進級 条件	卒業単位の取得が条件 出席率70%以上、定期テストの実施																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談や三者面談、専門カウンセラーによる面談実施			課外活動	■課外活動の種類 国内旅程管理研修、海外旅程管理研修																						
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 旅行・バス業界			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																						
	■就職指導内容 ①担任との面談実施、就職担任との面談実施、面接練習 ②学内企業セミナー実施				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブライダルコーディ ネット技能検定</td> <td>②</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ブライダルコーディ ネット技能検定	②	3	3												
	資格・検定名	種	受験者数		合格者数																						
	ブライダルコーディ ネット技能検定	②	3		3																						
■卒業者数 4 人 ■就職希望者数 3 人 ■就職者数 3 人 ■就職率 100.0 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 75.0 %			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③の いずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得する もの ③その他(民間検定等)																								
■その他 ・進学者数: 0人			■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																								
(令和 3 年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																											
中途退学 の現状	■中途退学者 1名 令和3年4月1日時点において、在学者5名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者4名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、経済的理由、学習意欲の喪失、健康上の理由など			■中退率 20 %																							
■中退防止・中退者支援のための取組 担任との個人面談、保護者との面談、初年度教育の徹底、補習の実施など																											
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度(授業料減免制度) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科の ホームページ URL	https://www.tit.ac.jp/department/bridal/																										

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

昨今の結婚式におけるニーズは多様化しており、業界では、結婚を決意したカップルが結婚式を迎えるまで、どのタイミングでどのような業務を行うのか、その業務に必要な知識は何かを幅広く身に付けている人材が求められている。ブライダル学科では、これに対応するため、結婚式に関わる多くの職種を幅広く実践的に学べるような教育課程を編成している。特にブライダルビューティー専攻では婚礼時の花嫁の支度に関する知識と技術はブライダル業界でも根幹をなす知識とスキルであり、新郎新婦にコーディネートするブーケや花束のイメージの起点となるものであり、企業と連携し婚礼衣装の着付け等を実践的に学ぶ。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学校長の下部、教員組織である学務部の上位に位置し、当校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業と連携し、必要な情報の把握・分析を行い、授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む教育課程の編成に活かすことを目的として設置された組織である。

具体的には、年度内に2回の開催を原則とし、シラバスを基に、各科目の授業目的や授業内容が業界のニーズに応えたものになっているかを、教員へのヒアリングを交えながら確認し、より実践に即したカリキュラムとなるよう、改善策を提案し、採用の是非を検討するものである。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
西田 篤史	株式会社Feeling Design	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
野口 幸一	一般社団法人ホスピタリティ機構	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
鷺坂 伸子	株式会社エッセ	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
磯部 浩昭	東京観光専門学校	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
疋田 彩湖	東京観光専門学校	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、**企業等委員の場合には**、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年8月27日 14:00～16:00

第2回 令和4年3月30日 13:00～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

編成委員より改めて、人間力、コミュニケーション力を高める授業の必要性を指摘された。

それを受け令和4年度のカリキュラムより以下の改善を実施する。

- ①「コミュニケーションスキル」授業を企業と連携した実習授業に改善し、より専門的な能力の向上を図る。
- ②それぞれの授業のつながりを持たせられるよう情報共有の徹底。
- ③内定後は自分の課題を見つけ、改善して卒業できるような指導。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ブライダル学科では、多様化するニーズに対応できる幅広い業務知識をもった人材を輩出することを目指している。この目標を実現するためには実務に関する実践的な授業を行うことが必要である。そこで学科では、企業・業界団体等と連携し、業界のトレンド等に関する情報の提供及び校内の実習施設や設備等を活用した指導などの協力が得られる企業・業界団体を選定している。また、校内の実習の実施にあたり、企業等からの課題を提示し、同企業の講師による定期的な指導から学修成果の評価を行うなどの体制をとることが可能な企業・団体を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

株式会社エッセとの連携により、「ブライダル知識」において、業界が求めるスキルの習得やスタイリング力など表現能力の向上を図っている。
 さらに同企業より学期末において学習成果の評価を行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ブライダル知識(ブライダルファッション実習)	新婦のウエディングドレス及び新郎のタキシードの着付方法を実習を通じて学ぶことにより、ブライダル業界が求めるスキルの向上を目指す。	株式会社エッセ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

①専門分野における実務に関する研修
 就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学科を指導する立場の教員として、常に業界の動向に目を向け、専門知識やスキルを体得するを目的に、業界団体等の機関により実施される研修に参加することとする。この研修は年に一度、原則として6月に実施している。

②指導力の修得・向上のための研修
 就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学生を指導する立場の教員として、学生に対する指導力の修得・向上のための研修に参加する。
 上記①及び②の研修は、勤務年数、業界経験年数にかかわらず、特段の理由がない限り参加しなければならない。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ブライダル業界の最新動向につて」(連携企業等:株式会社Feeling Design)

期間:令和3年8月27日(金) 対象:ブライダル学科教職員全員

内容:ブライダル業界の最新の施設や取り組みを理解し、現状を踏まえた学生指導に役立てる。さらにチームワークを必要とする業務の増加に伴い、コミュニケーション力や提案力をつける指導の強化を図る。

②指導力の修得・向上のための研修等

「～すべての人のジェンダーが平等に尊重される学校へ～」(連携企業等:日本LGBT協会)

期間:令和4年3月2日(水) 対象:全職員

内容:
 【目的】①LGBTQとは何か、当事者の多様性を理解すべき領域はどこまでかを学ぶことで、漏れのない学生対応が可能になる。
 ②LGBTQの当事者である学生の、こころの状態を把握することで最善の関わり方がわかる。
 ③教育現場に特有の注意点や必要な環境整備を理解することで、当事者の心理的安全性を担保できるようになる。
 【内容】①LGBTQとは何かという基礎的な理解をする。
 ②LGBTQ当事者の生き方やこころの持ち様を深く理解する。
 ③学生に向き合う教育現場でのLGBTQの基礎・気を付ける点を学ぶ。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「変化する結婚式への対応について」(連携企業等:株式会社Feeling Design)

期間:令和4年8月24日(水) 対象:ブライダル学科教職員全員

内容:結婚式のプランニングの変化にともなう打ち合わせのスタイルの変更を学びゲストヒアリング向上のためのコミュニケーション力養成を学ぶ。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「ITリテラシー・情報セキュリティ研修」

「ITリテラシー・情報セキュリティの重要性を指導できる教員育成」(連携企業等:合同会社アクセルフォーム)

期間:令和4年6月16日(木) 対象:全職員

内容:

【目的】ITリテラシーを向上させ、ICT教育の基盤づくりを進める。情報セキュリティの重要性を指導できる教員育成

【内容】①ITリテラシーとは何かという基礎的な理解をする。

②セキュリティ関連法規を理解する。

③教育現場(インターンシップを含む)におけるインターネットの利便性と危険性の理解

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教育目標に従った人材育成ができていないか、あるいはその教育目標を学科の指針として具体的に展開できているか、関連業界、卒業生を対象として、自己評価の結果にそって説明をすることで、教育目的、教育方法・内容、ガバナンスの3つの柱を基本とした運営面を評価いただく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか、など
(2) 学校運営	目的に沿った運営方針が策定されているか、など
(3) 教育活動	教育課程に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか、など
(4) 学修成果	就職率の向上が図られているか、など
(5) 学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(6) 教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(7) 学生の受入れ募集	募集活動は適正に行われているか、など
(8) 財務	中長期的に財政基盤は安定しているか、など
(9) 法令等の遵守	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10) 社会貢献・地域貢献	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など
(11) 国際交流	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

教育活動において、LGBTQをはじめとした多様性の理解が求められた。職員研修によって、教育現場でのLGBTQの基礎・気を付ける点を学ぶなど、多様性の理解度向上に取り組んだ。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
高木 友子	公益財団法人日本ケアフィット共育機構	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	協会役員
野口 幸一	一般社団法人ホスピタリティ機構	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	協会役員
木村 克也	特定非営利活動法人日本マナー・プロトコル協会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	協会役員
原 康隆	スカイマーク株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業役員
小林 隆	東武旅行サービス株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業役員
西田 篤史	株式会社Feeling Design	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業役員
関口 恭一	株式会社CALMO	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業役員
米倉 洲	東武トップツアーズ株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(3年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL:https://www.tit.ac.jp/about/files/information_disclosure.pdf

公表時期: 令和4年6月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業が求める、時代に即した人材を育成するための課題やニーズを共有し、学校の実践的な職業教育にかかる活動を評価・改善する中で、質の高い職業教育を行っていくために、広く雇用側の企業、関係団体、自治体等に向けて公表していくものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学科の特性や具体的な目標及び計画が設定されているか、など
(2)各学科等の教育	上記の目標にそったカリキュラムになっているか、など
(3)教職員	教職員として学生対応の資質向上にあたっているか、など
(4)キャリア教育・実践的職業教育	企業と連携した授業を体系的に取り入れているか、など
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(6)学生の生活支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(7)学生納付金・修学支援	適正に行われているか、など
(8)学校の財務	財政基盤は安定しているか、など
(9)学校評価	設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など
(11)その他	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.tit.ac.jp/about/files/information_disclosure.pdf

授業科目等の概要

(観光専門課程ブライダル学科ブライダルビューティー専攻)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			就職対策	就職活動に必要な自己分析、自己PR、志望動機、履歴書の書き方などの力を身に付ける	1後2前	64	4	○			○	○			
	○			ビジネスマナー	「秘書検定2級」取得を目指しながら、会社の仕組み、人間関係の構築の仕方、敬語、ビジネス文書の書き方などのマナーを身に付ける。	1前2後	64	4	○			○	○			
	○			業界研究	ブライダル業界における職種や企業研究	1後	32	2	○			○	○			
	○			ウエディングセレモニー	結婚式の各スタイルにおけるしきたりを学び、模擬挙式の発表を行う	1通	96	6			○	○	○	○		
	○			ヘアメイク実習	ブライダルヘアメイクの技術を学ぶ	1通	##	8			○	○			○	
	○			フラワー実習	フラワーを使ってドレスに合わせたブーケやヘアアクセサリーの作成技術を学ぶ	1前	64	4			○	○			○	
	○			衣裳知識	衣裳に関する知識とドレスサロンにおける実務を学ぶ	1通	64	4	○			○	○			
	○			ネイル実習	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェルネイル技能検定の取得を目指しつつネイリストとしての技術を身に付ける	1通	64	4			○	○			○	
	○			サービス技能士 (ブライダル情勢論)	ブライダル業界における各職種のトレンドを学ぶ	1前	32	2	○			○	○			
	○			パーティーサービス実習 (披露宴制作I)	披露宴を行うために必要な役割、準備の仕方、流れを実習を通じて学ぶ	1通	64	4			○	○	○	○		
	○			舞台演出 (披露宴制作II)	模擬披露宴の準備から発表までを各自が主体的に行う	1後2前	64	4			○	○	○	○		
	○			知識 (ブライダルファッション実習)	ウエディングドレスの着付け、小物の合わせ方を学ぶ	1後	32	2			○	○			○	○

13	○	フォーマルウェア知識 (各種概論)	観光業界全般について学ぶことで、視野を広げ、各自が目指す業界との関係を学ぶ	1通	64	4	○			○		○							
14	○	ホスピタリティ (ブライダルゼミ)	産学協同に向けた実践	1通	64	4				○		○							○
15	○	カラーコーディネート (パーソナルカラー)	各お客様に似合うカラーの見極め方を学ぶ	1通 2通	##	8	○					○							○
16	○	販売検定 (筆記対策 (一般常識))	就職試験に向けた基礎学力をつける	1後 2前	64	4	○					○							○
17	○	インターンシップ	実践力を身に付けるため、企業で研修を行う	1後	64	4				○		○							
18	○	和装着付け (和装実習&知識)	和装の知識と着付けの技術を身に付ける	2前	32	2				○		○							○
19	○	MC実習 (披露宴制作Ⅱ)	模擬披露宴の準備から発表までを各自が主体的に行う	2前	32	2				○		○							○
20	○	コーディネーター実務 (立ち振る舞い)	接客業に必要な立ち居振る舞いを身に付ける	2通	64	4				○		○							○
21	○	BIA検定対策	アシスタントブライダルコーディネーター検定対策	2後	32	2	○					○							○
22	○	TOKANプロジェクト	2年間習得してきたことをもとにブライダル業界へ新たな提案を行う産学協同イベント	2後	64	4				○		○							○
23	○	スキルアップ	就職活動に必要な面接、グループディスカッションなどの力を集中的に見に付ける	2前	32	2	○					○							○
24	○	ヘアメイク実習Ⅱ	ブライダルヘアメイクの技術を学ぶ	2通	##	8				○		○							○
25	○	エステ実習	肌の構造を知り、エステティックの基礎を学ぶ	2通	##	8				○		○							○
26	○	ネイルエキスパート (ネイル実習)	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェルネイル技能検定の取得を目指しつつネイリストとしての技術を身に付ける	2通	64	4				○		○							○
27	○	アロマセラピー (ネイル実習)	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェルネイル技能検定の取得を目指しつつネイリストとしての技術を身に付ける	2通	64	4				○		○							○

43		○	フラワー実習	フラワーを使ってドレスに合わせたブーケやヘアアクセサリーの作成技術を学ぶ	2通	64	4			○	○			○
44		○	空間コーディネート	披露宴会場などの空間のコーディネートに関する技術を身に付ける	2後	32	2	○		○	○			○
45		○	ブライダル情勢論	ブライダル業界における各職種のトレンドを学ぶ	2前	32	2	○			○			○
46		○	海外研修旅行	海外のチャペルやホテルを見学する	1後 2後	64	4			○		○	○	
合計					46科目		2944単位時間(184単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。 その内必修・選択必修科目は96単位以上取得しなければならない 履修方法・・・必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる (留意事項)		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	16週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																									
東京観光専門学校		昭和57年10月1日		昭和57年10月1日		〒162-0843 東京都新宿区市谷田町3-21 (電話) 03-3235-5713																									
設置者名		設立認可年月日		設立認可年月日		代表者名																									
学校法人Adachi学園		昭和42年1月12日		昭和42年1月12日		安達 暁子 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-11 (電話) 03-3292-0662																									
分野		認定課程名		認定学科名		専門士																									
商業実務		観光専門課程		ブライダル学科 ドレススタイリスト専攻		平成12年文部科学省 認定																									
高度専門士		-																													
学科の目的																															
ニーズが多様化しているブライダル業界が求める「ウェディングプランナー」の育成を目的とする ①企業と連携した実習授業を行いブライダル業界における高い専門的な技術と知識の修得を図る。 ②一般教養としてビジネスマナーやコミュニケーション能力の向上を目指す。																															
認定年月日																															
平成28年2月29日																															
修業年限		昼夜		講義		演習																									
2年		昼間		1792		1216																									
						0																									
						1728																									
						0																									
						0																									
時間																															
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数																									
30人		2人		0人		2人の内数																									
						兼任教員数																									
						14人の内数																									
						総教員数																									
						16人の内数																									
学期制度		■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日				成績評価																									
						■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率、試験、授業態度による総合評価																									
長期休み		■学年始:4月1日 ■夏季:7月25日～8月31日 ■冬季:12月24日～1月7日 ■春季:3月1日～3月31日 ■学年末:3月31日				卒業・進級 条件																									
						卒業単位の取得が条件 出席率70%以上、定期テストの実施																									
学修支援等		■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談や三者面談、専門カウンセラーによる面談実施				課外活動																									
						■課外活動の種類 国内旅程管理研修、海外旅程管理研修																									
就職等の 状況※2		■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 旅行・バス業界 ■就職指導内容 ①担任との面談実施、就職担任との面談実施、面接練習 ②学内企業セミナー実施 ■卒業生数 5 人 ■就職希望者数 3 人 ■就職者数 3 人 ■就職率 100.0 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 60.0 % ■その他 ・進学者数: 0人 (令和 3 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)				主な学修成果 (資格・検定等) ※3																									
						■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)																									
						<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブライダルコーデ ネット技能検定</td> <td>②</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ブライダルコーデ ネット技能検定	②	5	5																
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																												
ブライダルコーデ ネット技能検定	②	5	5																												
						※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																									
中途退学 の現状		■中途退学者 1 名 令和3年4月1日時点において、在学者8名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者7名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、経済的理由、学習意欲の喪失、健康上の理由など ■中退防止・中退者支援のための取組 担任との個人面談、保護者との面談、初年度教育の徹底、補習の実施など		■中退率 12.5 %																											
経済的支援 制度		■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度(授業料減免制度) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																													
第三者による 学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																													
当該学科の ホームページ URL		https://www.tit.ac.jp/department/bridal/																													

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

昨今の結婚式におけるニーズは多様化しており、業界では、結婚を決意したカップルが結婚式を迎えるまで、どのタイミングでどのような業務を行うのか、その業務に必要な知識は何かを幅広く身に付けている人材が求められている。ブライダル学科では、これに対応するため、結婚式に関わる多くの職種を幅広く実践的に学べるような教育課程を編成している。婚礼時の花嫁の支度に関する知識と技術はブライダル業界でも根幹をなす知識とスキルであり、新郎新婦にコーディネートするブーケや花束のイメージの起点となるものであり、企業と連携し婚礼衣装の着付け等を実践的に学ぶ。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学校長の下部、教員組織である学務部の上位に位置し、当校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業と連携し、必要な情報の把握・分析を行い、授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む教育課程の編成に活かすことを目的として設置された組織である。

具体的には、年度内に2回の開催を原則とし、シラバスを基に、各科目の授業目的や授業内容が業界のニーズに応えたものになっているかを、教員へのヒアリングを交えながら確認し、より実践に即したカリキュラムとなるよう、改善策を提案し、採用の是非を検討するものである。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
西田 篤史	株式会社Feeling Design	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
野口 幸一	一般社団法人ホスピタリティ機構	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
鷺坂 伸子	株式会社エッセ	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
磯部 浩昭	東京観光専門学校	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
疋田 彩湖	東京観光専門学校	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、**企業等委員の場合には**、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年8月27日 14:00～16:00

第2回 令和4年3月30日 13:00～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

編成委員より改めて、人間力、コミュニケーション力を高める授業の必要性を指摘された。

それを受け令和4年度のカリキュラムより以下の改善を実施する。

- ①「コミュニケーションスキル」授業を企業と連携した実習授業に改善し、より専門的な能力の向上を図る。
- ②それぞれの授業のつながりを持たせられるよう情報共有の徹底。
- ③内定後は自分の課題を見つけ、改善して卒業できるような指導。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ブライダル学科では、多様化するニーズに対応できる幅広い業務知識をもった人材を輩出することを目指している。この目標を実現するためには実務に関する実践的な授業を行うことが必要である。そこで学科では、企業・業界団体等と連携し、業界のトレンド等に関する情報の提供及び校内の実習施設や設備等を活用した指導などの協力が得られる企業・業界団体を選定している。また、校内の実習の実施にあたり、企業等からの課題を提示し、同企業の講師による定期的な指導から学修成果の評価を行うなどの体制をとることが可能な企業・団体を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

株式会社エッセとの連携により、「ブライダル知識」において、業界が求めるスキルの習得やスタイリング力など表現能力の向上を図っている。
 さらに同企業より学期末において学習成果の評価を行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ブライダル知識(ブライダルファッション実習)	新婦のウエディングドレス及び新郎のタキシードの着付方法を実習を通じて学ぶことにより、ブライダル業界が求めるスキルの向上を目指す。	株式会社エッセ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

①専門分野における実務に関する研修
 就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学科を指導する立場の教員として、常に業界の動向に目を向け、専門知識やスキルを体得するを目的に、業界団体等の機関により実施される研修に参加することとする。この研修は年に一度、原則として6月に実施している。

②指導力の修得・向上のための研修
 就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学生を指導する立場の教員として、学生に対する指導力の修得・向上のための研修に参加する。
 上記①及び②の研修は、勤務年数、業界経験年数にかかわらず、特段の理由がない限り参加しなければならない。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ブライダル業界の最新動向につて」(連携企業等:株式会社Feeling Design)

期間:令和3年8月27日(金) 対象:ブライダル学科教職員全員

内容:ブライダル業界の最新の施設や取り組みを理解し、現状を踏まえた学生指導に役立てる。さらにチームワークを必要とする業務の増加に伴い、コミュニケーション力や提案力をつける指導の強化を図る。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「すべての人のジェンダーが平等に尊重される学校へ」(連携企業等:日本LGBT協会)

期間:令和4年3月2日(水) 対象:全職員

内容:
 【目的】①LGBTQとは何か、当事者の多様性を理解すべき領域はどこまでかを学ぶことで、漏れのない学生対応が可能になる。
 ②LGBTQの当事者である学生の、こころの状態を把握することで最善の関わり方がわかる。
 ③教育現場に特有の注意点や必要な環境整備を理解することで、当事者の心理的安全性を担保できるようになる。
 【内容】①LGBTQとは何かという基礎的な理解をする。
 ②LGBTQ当事者の生き方やこころの持ち様を深く理解する。
 ③学生に向き合う教育現場でのLGBTQの基礎・気を付ける点を学ぶ。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「変化する結婚式への対応について」(連携企業等:株式会社Feeling Design)

期間:令和4年8月24日(水)

対象:ブライダル学科教職員全員

内容:結婚式のプランニングの変化にともなう打ち合わせのスタイルの変更を学びゲストヒアリング向上のためのコミュニケーション力養成を学ぶ。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「ITリテラシー・情報セキュリティ研修」

「ITリテラシー・情報セキュリティの重要性を指導できる教員育成」(連携企業等:合同会社アクセルフォーム)

期間:令和4年6月16日(木)

対象:全職員

内容:

【目的】ITリテラシーを向上させ、ICT教育の基盤づくりを進める。情報セキュリティの重要性を指導できる教員育成

【内容】①ITリテラシーとは何かという基礎的な理解をする。

②セキュリティ関連法規を理解する。

③教育現場(インターンシップを含む)におけるインターネットの利便性と危険性の理解

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教育目標に従った人材育成ができていくか、あるいはその教育目標を学科の指針として具体的に展開できているか、関連業界、卒業生を対象として、自己評価の結果にそって説明をすることで、教育目的、教育方法・内容、ガバナンスの3つの柱を基本とした運営面を評価いただく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか、など
(2) 学校運営	目的に沿った運営方針が策定されているか、など
(3) 教育活動	教育課程に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか、など
(4) 学修成果	就職率の向上が図られているか、など
(5) 学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(6) 教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(7) 学生の受入れ募集	募集活動は適正に行われているか、など
(8) 財務	中長期的に財政基盤は安定しているか、など
(9) 法令等の遵守	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10) 社会貢献・地域貢献	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など
(11) 国際交流	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

教育活動において、LGBTQをはじめとした多様性の理解が求められた。職員研修によって、教育現場でのLGBTQの基礎・気を付ける点を学ぶなど、多様性の理解度向上に取り組んだ。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
高木 友子	公益財団法人日本ケアフィット共育機構	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	協会役員
野口 幸一	一般社団法人ホスピタリティ機構	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	協会役員
木村 克也	特定非営利活動法人日本マナー・プロトコル協会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	協会役員
原 康隆	スカイマーク株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業役員
小林 隆	東武旅行サービス株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業役員
西田 篤史	株式会社Feeling Design	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業役員
関口 恭一	株式会社CALMO	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業役員
米倉 洲	東武トップツアーズ株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(3年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL:https://www.tit.ac.jp/about/files/information_disclosure.pdf

公表時期: 令和4年6月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業が求める、時代に即した人材を育成するための課題やニーズを共有し、学校の実践的な職業教育にかかる活動を評価・改善する中で、質の高い職業教育を行っていくために、広く雇用側の企業、関係団体、自治体等に向けて公表していくものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学科の特性や具体的な目標及び計画が設定されているか、など
(2)各学科等の教育	上記の目標にそったカリキュラムになっているか、など
(3)教職員	教職員として学生対応の資質向上にあたっているか、など
(4)キャリア教育・実践的職業教育	企業と連携した授業を体系的に取り入れているか、など
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(6)学生の生活支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(7)学生納付金・修学支援	適正に行われているか、など
(8)学校の財務	財政基盤は安定しているか、など
(9)学校評価	設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など
(11)その他	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.tit.ac.jp/about/files/information_disclosure.pdf

授業科目等の概要

(観光専門課程ブライダル学科ドレススタイリスト専攻)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			就職対策	就職活動に必要な自己分析、自己PR、志望動機、履歴書の書き方などの力を身に付ける	1後2前	64	4	○			○	○			
	○			ビジネスマナー	「秘書検定2級」取得を目指しながら、会社の仕組み、人間関係の構築の仕方、敬語、ビジネス文書の書き方などのマナーを身に付ける。	1前2後	64	4	○			○	○			
	○			業界研究	ブライダル業界における職種や企業研究	1後2前	64	4	○			○	○			
	○			ウエディングセレモニー	結婚式の各スタイルにおけるしきたりを学び、模擬挙式の発表を行う	1通	96	6			○	○	○	○		
	○			ヘアメイク実習	ヘアメイクの基礎を身に付ける	1通	##	8			○	○			○	
	○			フラワー実習	フラワーを使ってドレスに合わせたブーケやヘアアクセサリーの作成技術を学ぶ	1前	64	4			○	○				○
	○			衣装知識(ドレスメーカー)	オリジナルドレスの製作をすることでドレスが店頭に出るまでの流れ、ドレスの構造を学ぶ	1通	64	4			○	○				
	○			ネイル実習	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェルネイル技能検定の取得を目指しつつネイリストとしての技術を身に付ける	1通	64	4			○	○				○
	○			レストランサービス技能士(ブライダル情勢論)	ブライダル業界における各職種のトレンドを学ぶ	1前	32	2	○			○	○			
	○			パーティーサービス実習(披露宴制作I)	披露宴を行うために必要な役割、準備の仕方、流れを実習を通じて学ぶ	1通	64	4			○	○		○	○	
	○			舞台演出(披露宴制作II)	模擬披露宴の準備から発表までを各自が主体的に行う	1後2前	64	4			○	○		○	○	
	○			ブライダル知識(ブライダルファッション実習)	ウエディングドレスの着付け、小物の合わせ方を学ぶ	1後	32	2			○	○			○	○

13	○		フォーマルウェア知識（各種概論）	観光業界全般について学ぶことで、視野を広げ、各自が目指す業界との関係を学ぶ	1通	64	4	○			○		○		
14	○		ユニバーサルホスピタリティ（ブライダルゼミ）	産学協同に向けた実践	1通	64	4				○	○			○
15	○		カラーコーディネート（パーソナルカラー）	各お客様に似合うカラーの見極め方を学ぶ	1通 2通	##	8	○			○				○
16	○		ファッション販売検定対策（筆記対策・一般常識）	就職試験に向けた基礎学力をつける	1後 2前	64	4	○			○				○
17	○		インターンシップ	実践力を身に付けるため、企業で研修を行う	1後	64	4				○		○		
18	○		MC実習（立ち居振る舞い）	接客業に必要な立ち居振る舞いを身に付ける	2前	32	2				○	○			○
19	○		コーディネーター実務（ドレスコーディネーター実務）	ドレスコーディネーターとしての実務を学ぶ	2通	64	4				○	○			○
20	○		TOKAN プロジェクト	2年間習得してきたことをもとにブライダル業界へ新たな提案を行う産学協同イベント	2後	64	4				○	○		○	○
21	○		スキルアップ	就職活動に必要な面接、グループディスカッションなどの力を集中的に見に付ける	2前	32	2	○			○			○	
22	○		パーソナルカラー	各お客様に似合うカラーの見極め方を学ぶ	2通	##	8	○			○				○
23	○		BIA検定対策	アシスタントブライダルコーディネーター検定対策	2後	32	2	○			○				○
24		○	衣装販売テクニック（ドレスコーディネーター実務）	ドレスコーディネーターとしての実務を学ぶ	2通	64	4				○	○			○
25		○	ネイルエキスパート	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェルネイル技能検定の取得を目指しつつネイリストとしての技術を身に付ける	2通	64	4				○	○			○
26		○	ヘアメイク実習Ⅱ	ブライダルヘアメイクの技術を学ぶ	2通	##	8				○	○			○
27		○	エステ実習（サロン実習）	ドレスサロンにおける接客を学ぶ	2前後	##	8				○	○		○	

28	○	ウエディング アイテムデザ イン	ドレスに合わせる小物類の製作	2 通	64	4			○	○			○
29	○	アロマテラ ピー（フォー マルウェア 検定対策）	フォーマルウェア検定対策	2 通	64	4	○			○			○
30	○	ドレスメンテ ナンス（衣装 メンテナン ス）	ドレスコーディネーターの業務の一つである衣装メンテナンスの技術を身に付ける	2 前	32	2			○	○		○	
31	○	和装知識（和 装実習 & 知 識）	和装の知識と着付けの技術を身に付ける	2 前	32	2			○	○			○
32	○	ドレスコーデ ィネート（衣装 トータルコー ィネート）	新郎新婦のトータルの衣装の合わせ方、小物類の合わせ方を学ぶ	2 後	32	2	○			○			○
33	○	ドレススタイ ルデザイン （衣装スタイ ル知識）	婚礼衣装に関わる各スタイルの違いを学ぶ	2 後	32	2	○			○			○
34	○	ネイル実習	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェルネイル技能検定の取得を目指しつつネイリストとしての技術を身に付ける	1 前 2 通	96	6	○			○			○
35	○	PC実習	Word, Excel, Powerpointなどの基本的操作を身に付ける	1 通	64	4	○				○		○
36	○	手話	接客に必要な手話を学ぶ	1 後 2 通	96	6			○	○			○
37	○	接客英語	接客で使う英語のスキル向上を目指す	1 前	32	2	○			○		○	○
38	○	英会話	英語力の語学向上を図る	1 後 2 通	96	6	○			○			○
39	○	ブライダルビ ジネス論	ブライダル業界全般について学ぶ	1 後	32	2	○			○		○	
40	○	ヘアメイク キャリアアッ プ	ブライダルヘアメイクの技術をさらに向上させる	2 通	##	8			○	○			○
41	○	レストラン サービス技能 士	国家資格取得に向けての検定対策	2 前	32	2	○			○		○	
42	○	フラワー実習	フラワーを使ってドレスに合わせたブーケやヘアアクセサリーの作成技術を学ぶ	2 通	64	4			○	○			○

